



巡回健康診断 結果の見かた

千葉西総合病院
健康管理センター 巡回健診

TEL : 047-384-5010
(日・祝除く 9時~16時)



受診診療科の目安について



- こちらに載せている診療科は、あくまでも目安です。
受診される病院やクリニックによって、標榜している
診療科や体制が異なりますので、事前に各医療機関へ
お問い合わせのうえで受診してください。

また、当院からのお渡しは健診結果のみとなります。

受診される医療機関によっては紹介状が無い場合、診療費
とは別に料金が発生することがございますが、当センター
からは紹介状の発行は出来かねますのでご了承ください。

その他、不明な点がございましたら、
表紙に記載の電話番号までお問い合わせください。

※当院の診療体制や受診される診療科については、
下記へお問い合わせください。

TEL：047-384-8111(病院代表)
(日・祝除く 9時～17時)

巡回健康診断 検査項目の結果の見かた

診 察		
心	音	不整脈や心雑音を調べます。
肺	野	肺の雑音や呼吸の音を調べます。
腹	部	腸の動きや腫瘍の有無を調べます。

身 体 計 測	
標 準 体 重	身長×身長×22/10000
肥 満 度	(体重-標準体重)×100/標準体重
体 内 脂 肪 率	身体に微小な高周波電流を流し電気抵抗を求め、体内脂肪率を計測します。 体重に対し、脂肪がどれだけあるかを%で示します。男性：25% 女性：30% 以上は肥満です。
B M I	痩せと肥満の程度を示す指標です。体重(kg)/身長(m ²)で計算され、17.5~24.9が正常で、25以上は肥満です。
腹 囲	男性85cm、女性90cmが内臓脂肪100cm ² に相当する

血 圧 検 査			
血 圧	血圧は測定時の条件により変動します。高血圧と判断された場合は再検査を受けて下さい。高血圧は生活習慣病の一つですので、高血圧を指摘された方は日常生活を改善して下さい。		
		収縮期血圧	拡張期血圧
	正 常	129以下	84以下
	境 界 域	130-139	85-89
	高 血 圧	140以上	90以上
(単位：mmHg)			

異常が見つかったら

※原疾患(高血圧の原因となる病気)が別にある場合は、診療科が異なることがあります。

内 科



眼 科 検 査	
視 力	眼に疾患がある場合は矯正視力が出ないことが多くなります。 ただし、網膜裂孔、細膜剥離、緑内障などでは、視力が出ても注意を要します。

聴 力 検 査	
聴 力	1,000Hzは会話領域の聞こえを調べ、4,000Hzは高音域に起こる難聴を早期に発見するために検査します。

心 臓 検 査	
心 電 図	心電図とは、心臓が収縮・拡張する時に心臓の筋肉から発生する非常に小さい電流を体の表面から記録したものです。この心電図から心臓の働き具合がわかります。主に不整脈・狭心症・心筋梗塞・心膜炎・心肥大の診断に役立ちます。所見が書かれていても、総合判断で特に指示が出されていない場合は現時点では心配ないものと考えてください。

異常が見つかったら

※胸痛や動悸など、症状がある場合は
早期受診をおすすめします。

循環器科
など



胸 部 X 線 検 査	
肺 野 所 見	肺に結核等の呼吸器系の病気があるかどうかを判定したものです。 ● 要精査・・・肺野所見を認めますが、病的所見かどうかの判断がつかない場合です。呼吸器科専門医のもとで詳しいレントゲン検査が必要です。 ● 経過観察・・・肺野に所見を認めますが、現時点では精密検査の必要がない場合です。 ● 有所見健康・・・肺野に所見を認めますが、現時点では特に心配のない所見の場合です。
心 陰 影 形 態 観 察	心臓の陰影の形や大きさ及び大動脈や肺動脈の陰影の異常の有無を検討し、心臓や血管の異常の有無を調べます。

異常が見つかったら

※陰影などの原因となる病気が多く存在するため、
診療科が異なることがあります。

内科
呼吸器科
など



上 部 消 化 管 検 査	
上部消化管	【上部消化管X線検査】 バリウムを飲んで消化管のがんや潰瘍を診断します。

胃 の 健 康 度 検 査	
ペプシノゲン	胃粘膜の萎縮がすすむと減少する。血中のそれぞれの値や濃度比（Ⅰ／Ⅱ）を検査して胃の異常、特に萎縮の程度を調べます。
ピロリ抗体	胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないか調べる検査です。

腹 部 超 音 波	
腹部超音波	肝臓、胆のう、脾臓、脾臓、腎臓を超音波で調べます。 脂肪肝、胆石、のう胞、腎結石、腫瘍などの有無を検査します。 ※脾臓は、消化管ガスの影響で見えづらい臓器となっています。

異常が見つかったら

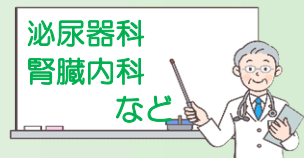
※腎臓の場合は、泌尿器科や腎臓内科など
を受診してください。

消化器科
など



尿 検 査	
蛋 白	腎臓病で陽性となります。激しい運動ストレスにより陽性になることもあります。尿沈査と血液検査と合わせて判定します。
糖	血糖値が高く、一定の限度を超えると尿中に糖が漏れてきて、糖尿病発見の手掛かりとなります。
潜 血	腎臓・尿管・膀胱の炎症、腫瘍、結石などがあると陽性になります。激しい運動で一過性に血尿がみられ、また原因不明の血尿もあります。月経中は尿中に血液が混ざりやすいので、月経が終わってから検査を受けて下さい。
ウロビリノーゲン	健康な人でもわずかな尿ウロビリノーゲンがみられます。(++)では肝障害、(-)では胆道の閉塞が疑われます。
P H	通常は弱酸性で7以下の事が多いです。食事の影響を受けます。
比 重	尿の濃さで腎機能障害を見る検査です。低すぎても高すぎても異常です。
沈 査	尿中に含まれる細胞、結晶成分を分析して診断に役立てます。通常でもわずかな細胞や結晶は見られます。赤血球増加は尿路結石・腎臓病等、白血球増加は尿路感染症、顆粒円柱は腎炎でみられます。

異常が見つかったら



便 検 査	
便 中 ヘモグロビン	消化管からの出血を調べる検査で、主に大腸出血を調べるものです。陽性的場合には、大腸のポリープ・憩室・がんや痔が疑われます。特に早期大腸がんのスクリーニングによい検査です。

異常が見つかったら

※痔の場合は、外科や肛門科などを受診してください。



血 液 一 般	
白血球数	細菌感染症・白血病・悪性腫瘍の転移で増加し、膠原病・一部の血液疾患では減少します。
赤血球数	少ない時は貧血、多い時は多血症となります。
血色素量	血液中の血色素量（ヘモグロビン）をあらわしたもので、貧血の指標となります。
ハマトクリット	血液中の赤血球の占める体積を%であらわしたもので、貧血の指標となります。
M C V	赤血球1個の平均容積です。
M C H	赤血球1個の平均血色素量です。
M C H C	赤血球容積に対する平均血色素量の割合です。
血小板数	血小板が少なくなると、血が止まりにくくなります。血液疾患・膠原病・肝硬変等で減少します。
血清鉄	鉄欠乏性貧血で減少します。
白血球分画	白血球を形によって分け、病気診断の手がかりとします。
好中球	細菌感染症・炎症・血液疾患で増加します。
好酸球	アレルギー疾患・寄生虫症・血液疾患で増加します。
好塩基球	血液疾患で増加します。
単球	マラリヤ・結核・梅毒などの慢性感染症や水痘、麻疹で増加します。
リンパ球	ウイルス感染症・血液疾患で増加します。
血液沈降速度	感染症や炎症などによって上昇します。

異常が見つかったら

※貧血の場合、症状によっては別の診療科になることもあります。

例) 吐血、下血 → 消化器科など
不正出血 → 婦人科など

内科
血液内科
膠原病内科



電 解 質 検 査	
ナトリウム カリウム クロール カルシウム リン	体液中に含まれる電解質で、腎障害・脱水症など種々の疾患でこれらのバランスが乱れます。 カルシウム・リンは副甲状腺ホルモン異常の指標に用いられます。

膵 機 能 検 査	
アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。膵炎・膵がん・唾液腺疾患で増加する他、悪性腫瘍で増加することがあります。

腎 機 能 検 査	
尿素窒素	腎障害・消化管出血で高くなります。運動、発熱、脱水でも高めになります。
クレアチニン	腎障害で高くなります。腎臓機能低下の手がかりとなります。
eGFR	血液中のクレアチニンと年齢および性別から計算した値です。 腎臓機能低下の手がかりとなり、慢性腎臓病の早期発見に役立ちます

肝 機 能 検 査	
総 蛋 白	血清蛋白は、いろいろな疾患で異常を示し、病態究明の手がかりとなります。
アルブミン	肝臓で作られ血漿膠質浸透圧を維持し、種々の物質を運搬する役割があります。 ネフローゼ・腎炎・肝硬変。慢性疾患・低栄養などの場合には減少します。
A / G 比	アルブミンとグロブリンの比で、肝障害や多くの疾患の究明の参考となります。
G O T G P T	GOTは心筋・筋肉・肝臓、GPTは肝臓の細胞に含まれる酵素で、これらの細胞が壊れると細胞内から血中へ酵素が出てくる事で高くなります。GOTは心筋疾患（心筋梗塞・筋炎）および肝疾患、GPTは肝疾患で高くなります。
L D H	悪性腫瘍・心筋梗塞・肝疾患・血液疾患などで著しい上昇が見られます。
γ - G T P	アルコール性肝障害・胆道閉塞（胆のうがん・胆管がん・胆管炎）等で上昇します。
総ビリルビン (直接型、間接型)	肝臓で作られ、胆汁へ排出される黄色の色素です。肝・胆道疾患では直接型が、溶血性疾患では間接型が高くなり黄疸を生じます。体質的（先天性）に高いこともあります。
A L P	骨・肝・腎・小腸粘膜などにある酵素で、これらの疾患などで高くなります。特に、閉塞性黄疸では著しく上昇します。また、小児や妊婦でも高くなります。
L A P	胆汁うっ滞、肝細胞障害で高くなります。
コリンエステラーゼ	血液や全ての臓器の細胞に含まれており、高い場合、糖尿病、脂肪肝を疑います。
H B s 抗原	B型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗原（+）はB型肝炎に罹患していることを示します。
H B s 抗体	B型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗体（+）は、かつてB型肝炎にかかり、治癒していることを示します。
H C V 抗体	C型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗体（+）はC型肝炎の既往、あるいは罹患を示します。
H A 抗体	A型肝炎ウイルスの感染の指標です。抗体（+）はA型肝炎の既往、あるいは罹患を示します。
C P K	CPKは、骨格筋、脳、心筋、平滑筋に多く含まれ、他の臓器にはあまりないので、この局在性が、疾患の診断に利用されます。
C P K - M B	急性心筋梗塞、心筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患で高値になります。

血 清 反 応	
C R P	急性炎症や組織が壊れた時に陽性となり、慢性間接リウマチなどの膠原病・感染症・悪性腫瘍で増加します。
高 感 度 C R P	動脈硬化や狭心症など心臓病の指標の1つです。糖尿病、肥満、喫煙、加齢でも上昇します。
R T P H R A	梅毒感染の有無及び既往を調べる検査です。膠原病で上昇することがあります。
R A	関節リウマチを診断する検査です。膠原病・肝硬変で陽性のことがあります。
アディポネクチン	内臓脂肪と相関していて、内臓脂肪が増えればアディポネクチンは減少します。 心筋梗塞や糖尿病では、数値が低くなります。
B N P	心不全や虚血性心疾患および脳血管疾患、閉塞性動脈硬化症などで高値になります。 潜在性動脈硬化の発見に役立ちます。

脂 質 代 謝	
総 コレステ ロ ー ル	肝臓で作られ、肝機能障害や栄養状態の指標になります。コレステロールの内容により解釈が異なります。
中 性 脂 肪	血液に含まれる脂肪分で動脈硬化に関係があります。 食後は高くなるので早朝空腹時に採血が必要です。
H D L コレステロール	いわゆる善玉コレステロールで、低値は動脈硬化性疾患の危険因子の一つです。 有酸素運動で増加し、喫煙・肥満で減少します。
L D L コレステロール	いわゆる悪玉コレステロールで、高いと動脈硬化をまねく恐れがあります。 有酸素運動と食事療法で低下します。

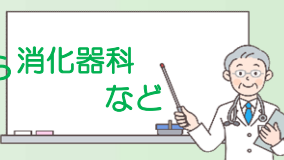
糖 代 謝	
空 腹 時 血 糖	血液中のブドウ糖量を調べる糖尿病の検査です。食後は高くなりますので、早朝空腹時に採血し測定されます。（一泊ドックは糖負荷試験もあります）
H b A 1 c	過去1～2ヶ月間の血糖のコントロール状態を知る事ができます。血糖値が正常でもこの値が高いときは糖尿病が疑われます。

尿 酸	
尿 酸	血中尿酸値が常が高いと痛風発作などを起こします。肥満・肉・魚介類の食べ過ぎ、アルコール常習過飲、過度の筋肉疲労および脱水で上昇します。

甲 状 腺	
TSH FT3 FT4	甲状腺の機能を調べる血液の検査です。 バセドウ病や橋本病などの診断に有効です。

腫 瘍 マ ー カ ー	
C E A	主に胃や大腸、膵臓など消化器系がんのマーカーとして用いられます。
P S A	前立腺がんのマーカーとして用いられます。（男性のみ）
γ-セミノプロテイン	前立腺がんのマーカーとして用いられます。（男性のみ）
A F P	肝臓がんのマーカーとして用いられます。
S C C	扁平上皮がん（子宮頸管部）のマーカーとして用いられます。（女性のみ）
CA19-9	膵臓がんのマーカーとして用いられます。
CA125	卵巣がんのマーカーとして用いられます。

肝臓、膵臓、胆のう、消化管で
異常が見つかったら



血管や心臓で
異常が見つかったら



腎臓や前立腺で
異常が見つかったら



高コレステロール血症や糖尿病
の疑いがある場合は



